

「稲城市医療計画」あるべき医療提供体制の実現に向けた取組状況について（令和5年度）

I. 高度急性期・急性期入院の機能分化連携初期救急の充実

今後の課題方向性	取り組み状況	令和5年度 結果(進捗状況)	
<p>●入院（高度急性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市外の高度急性期病院の機能を活かした連携体制の推進</li> <li>市内の医療体制を踏まえ、現状を維持</li> </ul> <p>●入院（急性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内急性期病院を中心に、疾病に応じた必要な体制の整備、市外の医療機関との連携</li> <li>市の疾病に応じた必要な病床の確保、及び必要病床数を踏まえた機能の充実</li> <li>市内の医療機関と稲城市消防(救急救命士等)と更なる連携強化</li> </ul> <p>●通院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民の適切な受療行動の実現、市内のかかりつけ医の広がり</li> <li>休日夜間の機能分担による通院の繁忙の抑制、在宅医療供給の創出</li> </ul>	<p>具体的な取組施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲城市の地域特性を踏まえ、市外の高度急性期医療機関への搬送体制の連携及び維持</li> <li>市の疾病に応じた必要な医療の提供、及び病床の確保、また、回復期病床を有する医療機関等との連携強化</li> <li>初期医療、2次医療及び3次医療の役割分担の中で、かかりつけ医を持つことを推進</li> <li>病院機能に応じた搬送体制の連携及び維持</li> <li>#7119の市民への啓発普及</li> </ul>	<p>令和5年度 具体的に目標とする取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急委員会にて、救急受入の課題や解決法を議論し、より多くの救急を受け入れる。</li> <li>外来医療機能の役割分担を目的に、東京都の地域医療構想調整会議を経て、都から8月より紹介受診重点医療機関と公表される見込みのため、近隣医療機関と、より緊密に連携体制を強化していく。</li> <li>市立病院が急性期医療機関としての機能を十分に果たせるよう、市立病院と協働し、市民へかかりつけ医をもつことの必要性と地域医療連携の取組みについて普及啓発を行った。</li> <li>母子保健及び健康増進事業実施時に、適正受診に関するチラシを配布する等、啓発を実施する。</li> <li>地域医療の現状を把握するため、医師会との情報交換を引き続き実施する。</li> <li>病院機能に応じた搬送体制の連携及び維持、#7119の市民への啓発普及について稲城市消防本部と情報交換する。</li> </ul>	<p>令和5年度 結果(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紹介重点外来割合、紹介・逆紹介割合等の基準を達成し、8月に紹介受診重点医療機関として東京都から公表された。</li> <li>市立病院が急性期医療機関としての機能を十分に果たせるよう、市と協働し、市広報及び各関係団体に説明を行うなど、市民へかかりつけ医をもつことの必要性と地域医療連携の取組みについて普及啓発を行った。</li> <li>適正受診に関するリーフレットを3歳児健診時に配布した。</li> <li>医師会との情報交換を図り、地域医療の状況把握に努めた。</li> <li>稲城市消防本部において、#7119について、市ホームページ、広報いなぎ、市公式Twitterへ掲載しているほか、救命講習において周知を図っている。</li> </ul>

II. 回復期病床の確保・充実

今後の課題方向性	取り組み状況	令和5年度 結果(進捗状況)	
<p>●入院（回復期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回復期から市内在宅へ連携強化のための市内回復期の充実</li> <li>必要病床数を踏まえた回復期病床への転換、増床の実現</li> </ul> <p>●入院（慢性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療の不足による慢性期入院の防止</li> <li>円滑な在宅移行体制の実現</li> <li>回復期病床への機能転換の実現</li> </ul>	<p>具体的な取組施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療を担う市内の医療機関の後方支援の推進</li> <li>市内病院の回復期病床への転換に向けての本計画内容の共有</li> <li>療養病床を有する有床診療所の開設支援等</li> <li>ACPの普及、啓発</li> </ul>	<p>令和5年度 具体的に目標とする取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修を検討する。</li> <li>「稲城市民のための訪問診療医ガイド」を市内外の病院に配布し、在宅医療を利用できることや、また、利用を望む患者に訪問診療医を案内いただくことを促進する。</li> <li>6月に開催する市民向け講演会「在宅医療の中の服薬支援」で市民にACPの必要性を紹介する。</li> <li>9月に開催する「在宅医療・介護連携を連携するための多職種連携研修会」にて、専門職が看取り期の支援を学ぶ機会を提供する。</li> <li>6月、7月、10月、11月に4圏域で市民向けの「在宅医療ミニ講座」を開催し、市民にACPの必要性を紹介する。</li> <li>市内病院と情報共有を図る。</li> <li>稲城市医療計画を市ホームページ等に掲載し、市内に必要な病床の周知を図り、開設希望があった際には、支援に努める。</li> </ul>	<p>令和5年度 結果(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターこうようたい主催の家族介護者教室にて、市立病院の緩和ケア認定看護師が講師となり12月14日に「自分で考える「生き方」「逝き方」としてACPの講座を市民向けに実施した。</li> <li>「稲城市民のための訪問診療医ガイド」について、市民向けには「在宅医療市民向けミニ講座」や市の窓口にて配布し、医療機関等事業所には、要望があった場合に再配布した。</li> <li>6月25日に市民向け講演会「在宅医療の中の服薬支援」を開催。専門職から服薬の支援を中心に在宅医療の利点を、また、実際に自宅で療養のサポートを受けた家族の体験談を紹介した。</li> <li>9月3日に「在宅医療・介護連携を連携するための多職種連携研修会」を開催。「在宅での看取りを多職種で支える」をテーマに講義及び演習を実施した。</li> <li>「在宅医療市民向けミニ講座」を7月3日(第4圏域)、7月19日(第3圏域)、10月31日(第2圏域)、11月29日(第1圏域)に実施。訪問診療医による在宅医療についての講座に加え、いなぎ在宅医療・介護相談室の相談員や地域包括支援センター職員も同席した質疑応答を実施する中で、ACPIに関する資料配布を行い、普及啓発に努めた。</li> <li>稲城市在宅医療介護連携推進協議会にて、情報共有を図った。</li> <li>稲城市ホームページに稲城市医療計画の進行状況を掲載した。</li> <li>東京都地域医療構想調整会議等、東京都から提供される病院届け出情報等に注視した。</li> </ul>

III. 診療科の充実(外来)

今後の課題方向性	取り組み状況	令和5年度 結果(進捗状況)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科の充実</li> <li>整形外科の充実</li> </ul>	<p>具体的な取組施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科における機能の充実</li> <li>整形外科の充実</li> </ul>	<p>令和5年度 具体的に目標とする取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科病棟のLDR化(陣痛から分娩、産後の回復までを1つの部屋で行う部屋)を2か年で推進する。令和5年度は2部屋、令和6年度は1部屋を整備予定。ホームページなどで広報を行っていく</li> <li>稲城市医療計画を市ホームページ等に掲載し、市内で充実が望まれる診療科を周知する。</li> <li>引き続き、まちづくり計画課と医療機関誘致も含めた街づくりの検討等について、機会を捉えて随時協議をする。</li> </ul>	<p>令和5年度 結果(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12月より産婦人科病棟のLDR改修工事が開始された。10/15広報特別号で産婦人科紹介や改修工事の市民周知を行った。</li> <li>稲城市医療計画を市ホームページ等に掲載し、市内で充実が望まれる診療科を周知した。</li> <li>内科が矢野口地区に開業し、市健(検)診事業等、市の事業を受託し、地域医療に携わっている。</li> </ul>

IV. 在宅医療の充実

今後の課題方向性	取り組み状況	令和5年度 結果(進捗状況)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅療養後方支援の機能強化</li> <li>在宅医療に関する市民への普及啓発</li> <li>市内・市外の在宅医による在宅医療の実現</li> <li>在宅医療における機能分化・連携体制の実現</li> <li>訪問看護事業所の支援</li> </ul>	<p>具体的な取組施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲城市在宅医療・介護連携推進協議会の開催</li> <li>稲城市在宅医療介護連携マップの更新</li> <li>いなぎ在宅医療・介護相談室による相談対応</li> <li>在宅医療を紹介するパンフレットの作成を通じた連携の推進</li> <li>多職種連携研修、専門職研修の実施</li> <li>市民向け講演会やシンポジウムの実施</li> <li>市在宅医療支援病床確保事業の継続</li> </ul>	<p>令和5年度 具体的に目標とする取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療機関向けの勉強会である、医療連携勉強会を実施する。</li> <li>「稲城市民のための訪問診療医ガイド」を市内外の病院に配布し、在宅医療を利用でき、それを望む患者に訪問診療医を案内いただくことを促進する。</li> <li>6月に開催する市民向け講演会「在宅医療の中の服薬支援」で市民に在宅医療の利点等を紹介する。</li> <li>6月、7月、10月、11月に4圏域で市民向けの「在宅医療ミニ講座」を開催し、市民に在宅医療の利点等を紹介する。</li> <li>在宅療養を推進するため、在宅医療支援病床確保事業を見直す。</li> </ul>	<p>令和5年度 結果(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療連携勉強会について認定看護師を講師に合計2回(12月摂食嚥下・2月認知症)実施した。</li> <li>「稲城市民のための訪問診療医ガイド」について、市民向けには「在宅医療市民向けミニ講座」や市の窓口にて配布し、医療機関等事業所には、要望があった場合に再配布した。</li> <li>6月25日に市民向け講演会「在宅医療の中の服薬支援」を開催。専門職から服薬の支援を中心に在宅医療の利点を、また、実際に自宅で療養のサポートを受けた家族の体験談を紹介した。</li> <li>「在宅医療市民向けミニ講座」を7月3日(第4圏域)、7月19日(第3圏域)、10月31日(第2圏域)、11月29日(第1圏域)に実施。訪問診療医による在宅医療についての講座に加え、いなぎ在宅医療・介護相談室の相談員や地域包括支援センター職員も同席した質疑応答を実施した。</li> <li>在宅療養を推進するため、稲城市在宅医療・介護連携推進協議会にて、在宅医療支援病床確保事業の対象者拡大に向け、見直しの議論を行った。</li> </ul>

V. 認知症への対応

今後の課題方向性	取り組み状況	令和5年度 結果(進捗状況)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の予防の推進</li> <li>認知症専門医やサポート医の充実</li> <li>認知症疾患医療センターとの連携</li> <li>認知症に対する相談機能の充実</li> <li>認知症に関する関係機関の連携による本人・家族への支援</li> </ul>	<p>具体的な取組施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症支援コーディネーターによる相談支援の継続</li> <li>認知症予防教室の継続</li> <li>認知症施策連絡会の開催</li> <li>認知症初期集中支援チームによる訪問支援</li> <li>認知症疾患医療センターとの連携</li> <li>認知症ケアパスの更新と活用</li> <li>若年性認知症センターとの連携</li> </ul>	<p>令和5年度 具体的に目標とする取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に認知症認定看護師の受験要件を満たした2名の看護師は、秋の資格試験に向けて勉強中であるが、同時に院内に認知症ケアチームを発足させ、認知症患者へのケアを強化していく。また地域の医療機関向けの勉強会として、認知症に関する講習も予定している。</li> <li>改定した認知症ケアパスを活用した勉強会や説明会等の開催。</li> <li>認知症の早期発見早期対応をさらに進めるための方策の検討。</li> </ul>	<p>令和5年度 結果(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年4月より認知症ケアチームの活動を開始した。2月に認知症患者のケアをテーマに認定看護師による勉強会を開催した。</li> <li>改定した認知症ケアパスを用いて、高齢者の交流の場やふれあいセンターのコーディネーターを対象に勉強会を開催した。</li> <li>9月に若年性認知症の普及啓発のための講演会を実施した。</li> </ul>

VI. 地域医療連携機能の強化

今後の課題方向性	取り組み状況	令和5年度 結果(進捗状況)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>病診連携及び在宅医療介護連携の推進</li> <li>稲城市在宅医療・介護連携支援センター(いなぎ在宅医療・介護相談室)の活用</li> <li>在宅医の支援と市外の在宅医との連携</li> </ul>	<p>具体的な取組施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲城市在宅医療・介護連携推進協議会の開催</li> <li>稲城市在宅医療介護連携マップの更新</li> <li>いなぎ在宅医療・介護相談室による相談対応</li> <li>在宅医療を紹介するパンフレットの作成を通じた連携の推進</li> <li>多職種連携研修、専門職研修の実施</li> <li>市民向け講演会やシンポジウムの実施</li> <li>市内回復期病院から市内在宅医への連携支援</li> <li>市外急性期病院から市内回復期病院への連携支援</li> <li>療養病床へ入院している市民の退院後の在宅医療連携及び在宅介護の支援</li> </ul>	<p>令和5年度 具体的に目標とする取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療機関向けの勉強会である、医療連携勉強会を実施する。</li> <li>当院と関係している地域連携医療機関を当院ホームページ上で公開し、外来医療機能の役割分担を推進することで、地域医療連携を強固にしていく。</li> <li>「稲城市民のための訪問診療医ガイド」を市内外の病院に配布し、在宅医療を利用でき、それを望む患者に訪問診療医を案内いただくことを促進する。</li> <li>9月に開催する「在宅医療・介護を連携するための多職種連携研修会」にて、病院の医師や看護師、診療所の医師に参加いただく。</li> </ul>	<p>令和5年度 結果(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療機関向けに勉強会を2回開催し、1回目(12月に摂食嚥下をテーマに35名、2回目(2月に認知症をテーマに45名)が参加された。</li> <li>市立病院ホームページに「メディマップ」を掲載し300以上の医療機関が連携医療機関として公開を開始した。</li> <li>「稲城市民のための訪問診療医ガイド」について、市民向けには「在宅医療市民向けミニ講座」や市の窓口にて配布し、医療機関等事業所には、要望があった場合に再配布した。</li> <li>9月3日に「在宅医療・介護連携を連携するための多職種連携研修会」を開催。「在宅での看取りを多職種で支える」をテーマに講義及び演習を実施し、病院の医師や看護師、診療所の医師等にご参加いただいた。</li> </ul>